

令和6年度 大田区立池上小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年2月26日

- 学級数 通教学級19学級 特別支援学級4学級 ○ 児童数615名(令和6年9月1日現在)
○ 教員数30名 …校長1、副校長1、主幹教諭2、主任教諭9、養護教諭1、教諭18名(休業含む) ○ 行政系職員2名(事務、栄養士) ○ その他、会計年度任用職員・委託・派遣職員
○ 校内研究 研究主題「協働して学び、地域の未来を自ら創り出す児童の育成」～教科「おたの未来づくり」実施に向けてのカリキュラムマネジメントの推進～
○ 特色ある教育活動 … 詩集「いけがみ」の発行 一人一鉢栽培 異学年交流活動「なかよし班活動」地域の人材、自然、歴史的環境を生かした体験的な教育活動の充実
○ 東京都教科担任制等推進校(令和3年度～令和8年度)

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄									
								評価	人数	コメント							
生予個 き測 る困 目力 難標 をな 1育 来未 来社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していき意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4:90%以上	4	(概要) ◇A評価が78.4%(昨年比+1.5ポイント)・A・B評価が97.5であった。話し合う場面を取り入れた授業やタブレットを用いて意見交換をする授業等、協働して問題を解決していく学習を全校で進めてきたことが成果として表れたと考える。 (その他の主な取組) ○5、6年の教科「おおたの未来づくり」では地域と連携、協働し、児童が主体的、創造的、協働的に活動する学習に取り組んでいる。 ○学校周辺の環境を生かした探究的な学習を全学年で行っている。 ○社会科や総合的な学習の時間、生活科等の学習で、タブレットを活用した調べ学習を行っている。 (今後) ▲教科「おおたの未来づくり」の学習計画を見直し、池上小学学校ならではの学習を組み立てていく。	A	8	・先生方が、調べ学習などでタブレットを効果的に活用し、児童の学びを深めるために創意工夫を重ねている。その結果、児童が主体的に学に向かう姿勢を育み、協働的な学習が一層活性化した。こうした成果は、先生方の熱意と創意工夫の賜物であり、児童の可能性をさらに広げる素晴らしい取組である。今後もタブレットを活用した授業の充実を図り、より質の高い学びを提供していくことを願っている。 ・学校を出て地域と連携し成果を得る体験はとても貴重だと思います。 ・児童が地域社会と協働して取り組むことにより、未来を予測し方向をさがして進んでいく。地域は開かれていなければならない。 ・電子黒板、タブレットといった機器の他、先生手作りの教材を活用し、分かりやすく、興味をもたせる工夫をしていると感じた。グループでの話し合いや発表を通して互いの意見を交換することで、新たな気付きや深い思考を得て協力して課題を解決することは社会に出て必要なことであり、大切な学習と思う。今後も継続していただきたい。 ・学校の環境を生かした学びは行われていると思いますが、「おおたの未来づくり」については令和7年度以降、それが活かされるような展開を期待しています。 ・情報技術の活用については、大きく分けて「有効な活用」と「適切な活用」の2つの課題があるように感じます。「有効な活用」は、その技術によってどんなことができるのかを知り、それを最大限に生かすこと。これについては、その使い方に熟知したプロ(IT、コミュニケーション、デザイン関係)に習う機会があったのもよいのではないかと思います。「適切な活用」は、ツールはあくまでもツールだと認識し、頼りすぎないこと。まずは手で書いたり、本で調べたりした上で、タブレットやインターネットなどを使うという手順を踏むことがとても大事だと思います。 ・教科横断的な学びは限られた時間の中であらゆる形で行えているように感じる。情報活用能力の育成は、何もデジタルである必要はない(特に小学生という学齢では)と感じるため、情報技術を使う力よりことばをしっかりと読み取り解く力、表現する力を重視してほしい。							
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	B	2			
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	C	1
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。														
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3			1:80%未満									
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。														
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。														
			お世個 お界別 たと目 をづ 標担 な2 うが 人国 材際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			3	4:90%以上	3	(概要) ◇A評価が23.0%、A・B評価が82.9%であった(今年度新設項目)。外国語専科が中心となり、外国語教育指導員と英語でコミュニケーションをする授業や、日本への留学生を招いた国際交流学習等の取組に評価をいただいたと考える。 (その他の主な取組) ○地域を愛する心や奉仕の心を育成をねらい、全校で地域清掃を行っている。 ○地域に残る伝統的な工業の学習を4年で行っている。 ○人権週間と関連して、標語やポスター作成に取り組んでいる。 (今後) ▲持続可能な社会をめざした取組についての学習を計画的に実践していく。	A	2	・児童が地域清掃活動を行ってくださり、誠にありがたい。児童が一生懸命に落ち葉やごみを拾う姿に、地域の私たちが心が温まり、大変嬉しく思った。おかげさまで、学校周辺や香川沿いが見違えるほどきれいになり気持ちよく過ごせるようになった。児童が地域の一員として支え合いながら、共に住みよいまちづくりを進めていければと思う。 ・地域清掃など子どもたちが地域のためにできることはとてもよいことだと思います。 ・英語の授業を少し参観したことがあります。自由な感じで子どもたちも伸び伸びしているのが印象的で、池上も国際都市になれそうです。 ・異文化理解には語学の学習だけでなく、多様な人々と実際にふれあうことが必要であろう。英語をコミュニケーションツールとして使う機会は有意義で、外国語専科の先生や留学生と交流する機会を継続していただきたい。持続可能な社会を目指す取組は地球全体の課題で大きな問題だが、まず自分は何ができるかと自分事として考える視点をもてると良いと思う。 ・外国語教育についてはこのまま進めていただきたいと思いますが、地域規模の課題等については、学校だけでなく、地域側にも主体的に学校と関わってもらう必要もあるので、CSが上手に使えるとよりよいかと思います。 ・外国語(英語)や国際交流、地球規模課題は大事だと思いますが、小学生にとって大事なことは、まずは日本語で、自分のことや地元のことをしっかりと語れるようになること、ではないでしょうか。その上で、それが世界とつながる第一歩であるということ、ローカルの問題がグローバルな問題とつながっていることを強く発信してほしいです。現在の「まち探検」や未来科の授業を、より深く掘り下げるのも、この目標の達成につながるのではないかと思います。北澤豪さんの特別授業のように、グローバルに活躍されている方の話を聞くことも、この目標の達成につながる取組だと感じました。 ・英語学習は楽しくできているように見受けられる。国際的な感覚を養う意味でも、英語だけでなく他の言語や文化、人に触れる機会がもっとあると良い。多(児童)対個(外国の方)ではなく、多対多又は個(児童)対多の環境を作り出せることよいのではないか。地球規模の課題はそういった素地を築けば、自ずとつくってくるのではないかと。
								3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	C				1											
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。							2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	D		2							
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。											3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1			1:70%未満		
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。									2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																	
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																	
た一個 め人 別の 目基 と標 礎り 3が な個 る性 力と 能力 成を 発揮 する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	4:全て80%以上		4	(概要) ◇「体育や運動に進んで取り組んでいる」のA評価が68.2%(昨年比-3.0ポイント)・A・B評価が91.3%であった。1校1取組の運動を9月に行ったが、高温のため運動が制限された期間と重なり、結果に影響したと考える。 ◇「授業で学習したことがよくわかる」のA評価が60.9%、A・B評価が93.6%であった(今年度新設項目)。算数での学習習熟度に応じた少人数指導や補修教室等、基礎学力の育成を図る取組が、成果に表れたと考える。 (その他の主な取組) ○生命尊重の心を育むため、1人1鉢の植物栽培に取り組んでいる。 ○本校独自の計算検定と区の漢字検定を実施し、児童に目当てをもたせて取り組ませている。 ○早寝早起き朝ごはん月間を年間2回設定し、家庭と連携して基本的な生活習慣の確立を図っている。 ○近隣の保育園、幼稚園、小学校、中学校と情報を共有し、指導に当たっている。 (今後) ▲1校1取組を見直し、時期を変更して実施する。	A			8	・少人数指導や補修教室を通じて、一人ひとりの学習状況に応じた丁寧な指導を行っていただいた。その結果、児童の基礎学力が着実に向上し、自信をもって学習に取り組む姿が見られるようになり、苦手意識をもっていた教科に対しても、粘り強く挑戦する態度がうまれたことを、大変嬉しく思う。ご指導くださった先生方の熱意と温かい支援のお陰である。基礎学力の向上のためにさまざまな取組に評価しています。 ・子どもたちが自分の身体や心の成長をめざして取り組んでいてほしいと思います。 ・体を動かすことの大切さは伝わっていると思います。「人間十人十色は気は十色」というように、一人一人に得手不得手があります。それぞれの個性が生かされ、また他者も認められるように育成されたいと思います。 ・運動や屋外活動は気候に影響を受けやすく、安全面にも配慮が必要なことと思う。特定の時期だけでなく、通年で少しずつ取り組めるような活動も一案かと思われ。「授業で学習したことがよくわかる」のA評価が93.6%であることは素晴らしいが、欲を言えばA評価の割合が増えることより良いと感じる。池上小学独自の1人1鉢栽培、詩集「むけがみ」、地域環境を生かした体験的取組は、池上小の伝統であり、今後も継続していただきたい。 ・小中一貫教育で個性を長い目で見て成長を見守ることができるようになるとよいですね。 ・個別目標5とし、3で特にポイントとなるのは、乳幼児～中学校への一貫性や生活習慣の確立でしょうか。コロナを経て、運動会や学習発表会など、全学年が集まってお互いのパフォーマンスを見る機会や、能力を発揮した子や頑張った子をみんなで讃えられるような場が増えてきた(戻ってきた)こともとてもよいことだと思います。しっかりと基礎的な学習が行えているようである。植物だけでなく動物などの命の触れ合いもあると良いのではないかと、書く力、読む力、遊びの中で体を鍛える機会をもっとつくれるといいと感じる。	
						3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	C	1											
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	D			2
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3				1:70%未満					
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。														
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。														
			お世個 お界別 たと目 をづ 標担 な2 うが 人国 材際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	4:90%以上				3	(概要) ◇A評価が23.0%、A・B評価が82.9%であった(今年度新設項目)。外国語専科が中心となり、外国語教育指導員と英語でコミュニケーションをする授業や、日本への留学生を招いた国際交流学習等の取組に評価をいただいたと考える。 (その他の主な取組) ○地域を愛する心や奉仕の心を育成をねらい、全校で地域清掃を行っている。 ○地域に残る伝統的な工業の学習を4年で行っている。 ○人権週間と関連して、標語やポスター作成に取り組んでいる。 (今後) ▲持続可能な社会をめざした取組についての学習を計画的に実践していく。	A	2		・児童が地域清掃活動を行ってくださり、誠にありがたい。児童が一生懸命に落ち葉やごみを拾う姿に、地域の私たちが心が温まり、大変嬉しく思った。おかげさまで、学校周辺や香川沿いが見違えるほどきれいになり気持ちよく過ごせるようになった。児童が地域の一員として支え合いながら、共に住みよいまちづくりを進めていければと思う。 ・地域清掃など子どもたちが地域のためにできることはとてもよいことだと思います。 ・英語の授業を少し参観したことがあります。自由な感じで子どもたちも伸び伸びしているのが印象的で、池上も国際都市になれそうです。 ・異文化理解には語学の学習だけでなく、多様な人々と実際にふれあうことが必要であろう。英語をコミュニケーションツールとして使う機会は有意義で、外国語専科の先生や留学生と交流する機会を継続していただきたい。持続可能な社会を目指す取組は地球全体の課題で大きな問題だが、まず自分は何ができるかと自分事として考える視点をもてると良いと思う。 ・外国語教育についてはこのまま進めていただきたいと思いますが、地域規模の課題等については、学校だけでなく、地域側にも主体的に学校と関わってもらう必要もあるので、CSが上手に使えるとよりよいかと思います。 ・外国語(英語)や国際交流、地球規模課題は大事だと思いますが、小学生にとって大事なことは、まずは日本語で、自分のことや地元のことをしっかりと語れるようになること、ではないでしょうか。その上で、それが世界とつながる第一歩であるということ、ローカルの問題がグローバルな問題とつながっていることを強く発信してほしいです。現在の「まち探検」や未来科の授業を、より深く掘り下げるのも、この目標の達成につながるのではないかと思います。北澤豪さんの特別授業のように、グローバルに活躍されている方の話を聞くことも、この目標の達成につながる取組だと感じました。 ・英語学習は楽しくできているように見受けられる。国際的な感覚を養う意味でも、英語だけでなく他の言語や文化、人に触れる機会がもっとあると良い。多(児童)対個(外国の方)ではなく、多対多又は個(児童)対多の環境を作り出せることよいのではないか。地球規模の課題はそういった素地を築けば、自ずとつくってくるのではないかと。
						3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。								
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	C				1											
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。										2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	D					2	
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。							3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1						1:70%未満			
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。									2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。																	
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。																	

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者向け「学校教育アンケート」の「学校は教科担任制や習熟度別少人数指導等、指導体制を工夫し、授業の改善に努めている。」に対する回答でA・B評価(よく当てはまる、やや当てはまる)の割合	4:90%以上	4	(概要) ◇A評価が51.9%(昨年比+1.9ポイント)A・B評価が92.3%であった。教員の専門性を生かした教科担任制や習熟度別少人数指導等、指導体制の工夫に評価をいただいたと考える。 (その他の主な取組) ○授業改善推進プランを作成し、教科ごとに説明会を開くことで教員の共通理解を深めている。 ○自己申告に基づく授業観察、理科指導専門員による指導、校内OJT等を活用し、授業改善を図っている。 (今後) ▲教職員の業務を見直し、教師が児童に向き合う時間を意図的に確保する等、ウェルビーイングを高める取組を推進する。	A	6	・教科担任制や習熟度別少人数の授業を活用し、授業の専門性を高めるとともに、指導の工夫を行ってきた。特に、児童の理解度を考慮した授業構成や、複数の教員が連携することで授業の質の向上が見られる。また、学習習慣の定着や、児童の主体的な学びの姿勢にも良い影響を与えている。授業の質が向上し、児童の理解が深まった。 ・③の評価「1」は言葉の解釈の違いでしょうか。少し極端な気がします。 ・今後も教師力の向上を期待しています。 ・時代の変化、教育の方向性、個人個人の特性を生かして指導していく教師の方々の工夫を感じる時がありました。先生方も個性を前面に出せる授業ができると良いと思う。 ・教科担任制は先生方の専門性を生かし、児童がより興味をもって理解、成長につながっていると感じる。今後も継続し、より質の高い授業をしていただきたいと思います。 ・教科担任制は近隣校にはない取組なので、さらなる池上小の魅力に育つことを期待しています。教師の授業力の向上には時間(質と量)がかかりますが、それには保護者側の協力も必要になる。特に量の部分、学校を挙げて取り組んでいきたいですね。 ・教職員の業務適正化、ウェルビーイングの評価が低い点が気になりました。大きな問題だと思います。新しい教科の設置に際し、科目のデザインから地域との調整までを担当学年の先生方が担うのは負担が大きいだろうと感じました。(以前、大学で産官学連携の新規カリキュラムの立ち上げに関わっていましたが、レクチャーの構成や各方面との調整などは、授業を担当する教員とは別に、コーディネータ専門の教員が配置され担当していました。「未来科」の調整業務も、本来、このような専門ポストが用意されてしかるべきではないかと感じます。) ・保護者は、学校や先生方に対して特に大きな不満を感じているようには見えませんが、教職員の方々が十分に能力を発揮できる環境が整っていないのは残念。どのような点が改善されるといいか、学校からも地域や保護者に情報発信してもらえるとよいと思う。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かし、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:85%以上					
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	1		2:80%以上					
						1:80%未満					
た 自 個 別 目 標 5 個 目 学 び 支 援 し ます	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童向け「学校生活アンケート」の「心配なことを聞いている先生がいる。」に対する回答でA・B評価(よく当てはまる、やや当てはまる)の割合 保護者向け「学校教育アンケート」の「学校は子どもたちの悩みや保護者の相談に対して、適切に対応できる環境を整えている。」に対する回答でA・B評価(よく当てはまる、やや当てはまる)の割合	4:全て80%以上	4	(概要) ◇児童のA評価が55.1%(昨年比-3.5ポイント)A・B評価が86.2%(昨年比+0.5ポイント)であった。保護者のA評価は40.1%(昨年比-0.3ポイント)A・B評価は92.3%(昨年比+3.1ポイント)であった。学校生活調査の結果をもとに個別に対応したことが評価されたと考える。 (その他の主な取組) ○特別支援教育委員会、いじめ・不登校対策委員会を毎月実施し、巡回指導教員やスクールカウンセラーと連携して、個に応じた指導の在り方や不登校・いじめ防止の対策について協議している。 ○週1回の生活指導夕会で問題行動やいじめ等の事案について報告し、指導方法や工夫について情報共有している。 (今後) ▲組織的な対応をさらに推進する。	A	7	・すべての児童が安心して学校生活を送れるよう、いじめ防止と不登校対策に力を入れている。児童一人ひとりの声に寄り添い、担任やスクールカウンセラー、養護教諭、学年団が連携しながら、早期発見・早期対応を徹底している。また、定期的なアンケートや話し合いの場を設け、児童が互いに尊重し合い、安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。これらの取組に児童・保護者が信頼し評価している。 ・問題行動など様々な機関と連携して取り組んでいると思います。 ・アンケート結果より、児童、保護者と信頼関係が培われていると感じた。いじめ・不登校をゼロにすることは難しいが、問題が起った際には各委員会等で情報共有、対応していることなどの面で、引き続き実践していただきたい。 ・個別目標との違いがわかりにくいように感じましたが、5のポイントは困難を抱えているお子さんや個別の対応が必要なお子さんへの配慮ということになるでしょうか。困難対応は非常に大事だと思いますが、「能力のある子をさらに伸ばす」ということも大事なことだと思います。後者についてはどの目標にも積極的に活かされていないように見えました。 ・子ども自身は、区別や差別することなく、お互いの違いを個性として捉えるマインドが育まれているように感じる。サポートも多角的に行っている印象である。困難のある児童の保護者が他の保護者と交わる機会・場がもておらず、同じ情報下にいない印象を受ける。(そのような声を聞く機会あり)
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:全て75%以上					
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:全て70%以上					
						1:いずれかでも70%未満					
安 柔 個 心 軟 別 目 標 6 個 目 環 境 的 な 学 び を 支 援 し ます	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者向け「学校教育アンケート」の「学校は避難訓練や安全指導を通して、子供の危険やや災害に対する教育を進めている。」に対する回答でA・B評価(よく当てはまる、やや当てはまる)の割合	4:90%以上	4	(概要) ◇A評価が58.7%、A・B評価が98.5%であった(今年度新設項目)。避難訓練や安全指導を計画的に実施したことが評価されたと考える。 (その他の主な取組) ○御会式の前日は4時間授業とし、下校時に混雑と重ならないようにして安全を確保した。 ○ICT推進委員会を設置し、校内のICT環境の維持・向上を行った。 (今後) ▲関係諸機関と連携した安全教育を継続していく。	A	9	・安全・安心な学校づくりを最優先課題の一つとし、日々の危機管理体制の充実に努めているので評価が高い。定期的な避難訓練の実施に加え、児童の防災意識を高める学習活動を行い、災害時にも冷静に行動できる力を育んでいる。また、校長先生が地域の防災訓練にも積極的に関わり、地域住民と連携しながら、学校が地域防災の拠点としての役割を果たしている。学校と地域が一体となった防災力の向上が図られている。 ・子どもたちの安全・安心を守る指導が適切にされていると思います。 ・安全指導については昨今の異常気象や自然災害も含め、幅広い事象についてもふれる機会があればよいと思う。御会式時の配慮もありがたい。今後も継続をお願いしたい。 ・現在、本門寺前の通りの電線地中化に伴う歩道道の改修や、霊山橋の修繕などが予定されていると聞いています。また、呑川沿いの道なども含め、池上小学校の通学路・学習環境としても大きな空間だと思っていますので、学校あるいは子どもたちからも意見を出すなど、何か交流があると良いように思っています。 ・安心、安全な環境づくりに努めていると思う。特に避難訓練はしっかりと丁寧に行えており、子どもたちにも緊急時の対応が当たり前のこととして、取り組めているように感じる。
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:85%以上					
						2:80%以上					
						1:80%未満					
学 校 別 目 標 7 個 目 地 域 的 な 学 び を 支 援 し ます	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者向け「学校教育アンケート」の「学校は地域と連携・協働して、様々な活動を実施している。」に対する回答でA・B評価(よく当てはまる、やや当てはまる)の割合	4:90%以上	4	(概要) ◇A評価が53.4%、A・B評価が94.4%であった(今年度新設項目)。教科「おおたの未来づくり」や総合的な学習の時間、生活科等の学習で地域と連携・協働した取組を充実したことが、評価いただいたと考える。 (その他の主な取組) ○5月に学校運営協議会を立ち上げ、学校の運営に参画していただいた。○地域の協力により、登下校時の安全の見守りをしていただいている。○ホームページを毎日更新し、学校の様子を発信している。 (今後) ▲学校教運営協議会をさらに充実させていく。 ▲保護者、地域対象の講演会のもち方について検討し、さらに参加しやすい会にしていく。	A	6	・保護者や地域の皆様に学校の教育活動をより理解していただくよう、ホームページを毎日更新し、学校の様子を発信していただきありがたい。授業の様子や行事の報告、児童の活動の成果などを写真とともに掲載することで、学校生活の透明性を高めるとともに、児童の頑張りを広く共有する場となっている。登校時に校長が笑顔で迎えている。児童は安心して、前向きな気持ちで一日をスタートできる。特に、不安を抱えている児童にとっては、心の支えになっている。 ・地域との様々な活動を実施して、子どもたちの視野を広げていると思います。 ・地域コミュニティ、地域を代表する集まりは朝会、自治会、商店会等を思いますが、それぞれは高齢化していて担い手が少ないのが現状です。学校とコミュニケーションがとれるのか？ ・地域と学校の連携・協働は、5月に立ち上げた学校運営協議会について話し合いがもたれているがまだ手づくりで進めている部分も多く、委員として自身の活動は十分とは言えないと感じている。先生方、他の委員の方と協力し、CSをさらに充実させていきたい。 ・学校の立地上、他校にないメリット、デメリットがたくさんある。そこを上手に使うこと、デメリットも上手に潰すことで改善していくと思います。 ・学校運営協議会のこれからの展開のポイントになりそうですね。1、3、5年単位のロードマップが描けると良いかなと思います。 ・まだまだ地域との連携はこれからの課題であるが、CS1年目としては良い意見交換の場が作れたのではないかと、学校(児童)にとってだけでなく、地域にとってのよい事をイメージしながら進められるといい。地域の大人と子どもが直接関われる機会を増やし、双方の関係性を築き、意識を高めていけるといい。地域のリソースを学校教育のプログラムに導入するといふよりは、児童が地域に参加しに行くよう促すような方向性かどうか。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:85%以上					
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2		2:80%以上					
						1:80%未満					

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。